

どいつもどいまでも前向き

保育士さん こんにちは

〈3〉

「子どもの成長過程のうち、人生の基盤になる時期に携わることができると、責任の重さを感じている」。まっすぐな目で保育士を目指したきつかけを語るのは、かなおか保育園に勤務する仙谷優さん。

8年目を迎える今年、副主幹という責任ある立場に就いた。「これまでは一人の保育士として一つのクラスをみていましたが、俯瞰的に物事を見られるよう心

掛けています」。園では年齢的に中堅ということもあり、責任の重さを感じている。子どもたちの成長を正しく導くことができるか、日々勉強中だ。

ある日のこと、砂場遊びでトンネルを作って水を流そうとしている3歳児クラスの子どもたちに声を掛けようか迷う場面があった。「そのまま水を流せば、砂

が吸収してしまつてうまく流れません。道具を使ってみるようアドバイスをするのは簡単でしたが……。しばらく考え、見守ることを選択した。

すると「大きな葉っぱを使えばいいんじゃない?」「新聞紙はどうかかな?」子どもたち同士で相談したり、上級生が声を掛けたりして、最終的には自分たちだけで問題を解決した。

「この場合は声を掛けなくて正解でしたが、場合によっては大人が導いてやることも必要です。その判断が何より難しい」。でも「子どもの成長を間近で見られるのが何よりのやりがいです」と口元をほころばせる。

保育士の仕事は子どもと直接関わることだけではない。さまざまな書類の整理や研修などで忙殺される日々が続く。「保護者の方々に『育児でどうしたらいいか分からなくなったとき、先生の言葉に何度救われたか分からない』と言われたことを今でも思い出します。保護者の支えになることも、保育士としては重要な要素の一つです」。

「一生懸命に努力する才能は誰よりも秀でていますが」と話すのは花咲宣子園長。ひたむきなその姿に「園を引っ張っていらっしゃいます」と期待を寄せられる。当面の目標は「保護者の気持ちに寄り添いながら、保育のプロとして初心を忘れずに成長していくことです」と力強く答える。

「将来結婚してもまた職場に戻ってきたい。子どもを産んだ経験が、保育士としてさらに成長させてくれる」と。どこまでも前向きな姿が周囲を引っ張る。

好きな言葉は「一生懸命」。一つの物事に、全力で取り組む姿勢を大事にしている。



社会福祉法人堺暁福祉会
かなおか保育園（大阪府堺市）

仙谷 優さん（27）

子どもの成長に関わりたい

（濱本高佑）